

第13回

人間の生活や社会に「ゆらぎ」をつくり出すのがイベントの役割

澤田裕二さん（愛知万博催事プロデューサー）



澤田裕二
1957年、東京都生まれ。明治大学建築学科卒業。博覧会デザイナー・プロデューサー。
（株）SD代表取締役。2001年山口きらら博プロデューサー。モーターショーなど大型イベントの演出・デザイン・プロデュース。

「環境」や「持続可能な社会」というテーマに対して、そもそもイベントという手段は適さないのではないかと、そんな疑問をイベントの専門家にぶつけてみると、おどろきの答えが返ってきた。

イベントとは？

「驚き楽しく夢のような出来事をイベントと言う」
木村尚三郎（東京大学名誉教授）

- イベントの効果**
- ① 開放によって「新しい挑戦（突然変異）」を可能にする
 - ② それを目の当たりにすることで、その実現を促進する
 - ③ 多くの人々が体験をすることを通じて「挑戦」を進化させる
 - ④ （問題意識を持つて見ることで）発見を誘発する効果
 - ⑤ 新しい交流を作り出す効果
 - ⑥ 競合性により開発を促進する効果

澤田流イベントの定義

- 1 「時間」と「空間」を限ることで、夢のように楽しい幸せ体験をつくりだす。
- 2 連続を嫌う人間の本能が求める「ゆらぎ」
 - ・生活や社会に「ゆらぎ」をつくりだすこと
 - ・さまざまなもの（日常の時間・空間・関係・きまり）からの開放によって、通常では得られない「価値」を実現する
 - ・それらを限定することによる希少性の高揚

イベントの種類

- ・日常のイベント……日々の暮らしを新鮮にする工夫
- ・伝統的イベント……お盆、年末年始、祭など
- ・集客イベント……夢のような時間を提供するコンテンツ
- ・常態化したイベント……遊園地、テーマパーク、観光地など

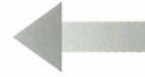
博覧会の仕立て方

- 1 / 大きな理想を掲げる
- 2 / 参加性の確保
- 3 / 競わせる
- 4 / 感じさせるプロモーション
- 5 / 期待を裏切る会場
- 6 / 常識の破壊と停止
- 7 / 興奮の維持
- 8 / その場でしか創出できない情報の重視
- 9 / 選択性の確保
- 10 / 名残と余韻を作る
- 11 / 戦略的組織とその効果的運営
- 12 / 博後への連続

大規模イベントなり、博覧会をやるなら意味のあるものに！

これからの社会をつくる新しいイベント

実現したい社会を具体的に描きそれをイベントによって限定的、仮説的に実現するのがこれからのイベントの役割。
そのことでそれに向かうエネルギーを高める。



イベントとは締切のあるまちづくりだ！



覧会屋

イベントの専門家
大衆のニーズを知った上で多くの人
が楽しめて、かつ未来に対しての夢
を描けるイベントらしい空間をつく
れる人、むつかしいテーマを編集で
きる人

専門家

今の時代、これからの時代を見据えて、今どんなテーマでどう提案すべきかを考える人

例えば・・・。

1. 循環型社会を実現させるスローライフEXPOを森の中で5年に1回のペースで実現させる
2. みんなで1つの山を丸裸にする市民参加の森づくりイベントなどをやってはどうか

求められる人材

大衆のニーズを知った上で、
むつかしいテーマを編集できる
イベント屋

これまでの環境NGOは伝えることが下手だった。
これからはイベントのプロと協力して、新しいイベントをつくっていく時代だ



専門家（例えば環境NGOのリーダー）などと協力して、イベントの中身をつくる

一般人が喜ぶこと、興味を持つことを切り口にイベント空間をつくりだす